

## 言って聞かせるより 気づかせることが大切

プロレスラー

**幸村 ケンシロウ** さん  
(揚町)



「体の衰えも感じないし、周囲には死ぬまでやると言っています」と語るのは、八代市在住の現役プロレスラー幸村ケンシロウさんだ。

プロレスラーを夢見るようになったのは小学5年生の頃。小さい頃から強いものに対する憧れがあり、周囲から強い人間だと認められたかった。テレビの番組でプロレスを見たとき、この職業が一番強いのではないかと思い、将来はプロレスラーになると決心した。

しかし、高校卒業時の体重は50kg程度。プロレスラーになるためには身長と体重どちらも規定に届かなかった。先生や友人などから「冗談だろ」「諦めろ」と言われ怒りが込み上げてきたという。その怒りを原動力に変え、大学入学後は体重を増やすために1日2食、米は1升食べ、大学4年間で体重は90kgに。努力の甲斐もあり、28歳の時に名古屋ダイヤモンドホールでプロデビューした。

現在は、2002年に独立・旗揚げした「求道軍」でプロレス活動をしている。道場には小さい子どもが遊びに来て、危ない所に昇ったりする。『ここで叱るのか、昇っ



▲八千把小学校で教育プロレスを披露  
(平成26年11月21日)

たら危ないと気づかせるのか」を幸村さんは考え、後者を選んだ。自分が昇り転んでけがするのを子どもの前で見せると、それ以降、子どもは危ないところに昇らなくなったという。言葉で伝えるのは簡単だが、気づかせることの方が大事だと確信。また、子どもたちは痛みに対し希薄になっていることから、プロレスの特性を活かして、痛みを感じ努力の大切さを知ってもらえればと「教育プロレス」を発案し、特許庁商標登録を取得した。

2009年、県内の小中学校に教育プロレスの募集をかけたところ、1校だけ応募があった。「その応募がなかったら現在どうなっているかわかりません」と話す幸村さん。教育プロレスではレスラー同士がタッグマッチ戦を行い、本物の技の掛け合いを披露する。痛みやリングの衝撃以外に、反則行為を通じてルールを守ることの大切さも伝えている。また、幸村さんは教育プロレスに懸ける思いや自身の経験を通しての講演会も行い、皆にエールを送っている。

教育プロレスや講演会の依頼は県内外からあり、県教育旅行受入促進協議会の視察も受けたことがある。県外から熊本に訪れる修学旅行生を対象とした教育プロレスの学習が協議会で検討されているという。

幸村さんの夢は『教育プロレスがくまモン並の認知度となること』、目標は「まずは教育プロレスで県内の学校を全て回ること」だ。「言って聞かせる教育より、気づかせる教育が大切です」と幸村さんは語った。



2015.FEBRUARY

No.122

- 3 城下町「やつしろ」のお雛祭り
- 7 市立博物館 冬季特別展覧会 お姫様の婚礼道具
- 8 熊本県広報協会 合同特集 “笑顔”の魔法
- 10 市民税・県民税の申告相談
- 12 国民年金保険料のお得な納め方
- 13 消防団員募集
- 14 やめよう放置自転車
- 15 暮らしの情報
- 16 市民カレンダー
- 18 暮らしの情報
- 24 広告
- 28 まちのわだい
- 31 伝言板
- 32 おれんじ鉄道友の会会員募集

### 今月の表紙



日本のミカンの原種である「高田みかん」を広くPRするため、高田みかんの歴史伝承に取り組む「やつしろ橘の会」(瀧川賢会長)の会員

や中村市長などが1月9日、JR阿蘇駅で豪華寝台列車「ななつ星in九州」の乗客に高田みかん5個入りの袋と由来が記された葉を手渡しました。

高田みかんは朝廷や幕府へ献上された歴史があり、現在は正月のお飾りとして出荷されています。

乗客たちは早速、香りや甘さを楽しんでいました。